

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人電気通信大学

1 全体評価

電気通信大学は、イノベーションをもたらすための幅広く統合化された科学技術体系を「総合コミュニケーション科学」と捉え、それに関する教育研究の実践の場として世界的な拠点となることを目指している。第3期中期目標期間においては、強みとする情報・電子・ロボティクス・光・ナノ材料等の学術・技術の更なる高度化を推し進め、確かな専門性と学際的・複眼的な思考力を備えグローバルな環境で技術や社会を先導することのできるイノベティブな人材の養成と、次世代科学技術分野及び既成概念に捉われない境界・融合領域の創造を通じて、人々が心豊かに暮らせる持続発展可能な社会の実現に向けた役割を果たすことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、ビッグデータや人工知能等を活用した能動学習・適応学習の研究に繋げることを目的とした、スペース内での学習の様子がデータ化可能なアクティブ・ラーニング環境を整備しているほか、URAが中心となって研究力の分析を実施し、大学の研究分野の強みや課題を明らかにした上で、新たなセンターの設置や組織間の異分野連携協定を締結するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- ものづくりを通じてグローバルかつイノベティブな人材を養成するため、「ロボメカ工房」や「高度ICT試作実験公開工房」等の「楽力教育」による体験教育を全学的に展開しており、学生主体でサークル的活動を行う「ロボメカ工房」では、積極的に学外コンテストに参加した結果、経済産業省 Innovative Technologies 2016 における特別賞の「human賞」や、IVRC（国際学生対抗ヴァーチャルリアリティコンテスト）2016：ユース部門における銀賞受賞といった成果をあげている。（ユニット「国際社会で通用する人材の育成」に関する取組）
- 広い分野で活躍できるリーダー的高度専門技術者・研究者を養成するため、大学院博士前期課程において高等機械大学院大学（フランス）とダブル・ディグリープログラムに関する協定を締結し、1名の学生を大学院に受け入れている。また、国際交流協定校であるオクラホマ大学（米国）、淡江大学（台湾）、キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）との間で単位認定可能な科目について調査を行い、海外協定校で修得した科目の単位認定ができるよう整備を行っている。（ユニット「教育内容と教育環境の国際化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 男女共同参画推進に向けた取組

津田塾大学、NTT先端技術総合研究所と連携して、女性研究者・学生向けの「英語論文スキルアップセミナー」や、研究者を志望する女子学生を対象としたキャリアセミナーを開催しているほか、大学に所属する研究者の支援として、一時保育施設である「UEC託児室」の設置等を行った結果、平成28年度の女性教員比率は、7.7%（対前年度比1.0ポイント増）となっている。

○ 戦略的な研究推進体制の構築

リサーチ・アドミニストレーター（URA）が中心となって実施した研究力の分析により、大学の研究分野の強みや研究者間、組織間の連携を大型化する必要性等の課題を明らかにした上で、「人工知能先端研究センター」をはじめとする新たなセンターの設置や、順天堂大学及び星薬科大学との組織間の異分野連携協定の締結を行うなど、研究力の強化に向けた組織体制の構築を推進している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○ 情報セキュリティマネジメント上の課題

情報セキュリティについては対策が講じられているものの、情報セキュリティを脅かす確率が高い事例が発生していることから、再発防止に向けた組織的な取組を更に実施することが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 同窓会と連携した就職支援の実施

同窓会と連携して、就職を希望する学生を対象に合同企業説明会の開催（6回開催、延べ2,151名参加）や、大学院博士後期課程進学を考えている学生を対象とした、博士号取得後の就職支援として企業とのマッチングイベントの実施、留学生の支援に詳しい講師を招いた外国人留学生のための就職ガイダンスにおける、海外での現地採用ができる企業の紹介や、留学生のOB・OGが在職している企業の相談・紹介等、就職支援に向けた様々な取組を実施している。

○ 先端研究と結合したアクティブ・ラーニング環境の整備

ビッグデータや人工知能等を活用した能動学習・適用学習の研究につなげることを目的として、スペース内の各所に設置された各種センサーやネットワークカメラ・マイク等を通じて、利用者の学習の様子がデータ化可能なアクティブ・ラーニング環境を整備している。